



校長 坂本 晋

みたけが原便り

第17回「耳の不自由な人のための火災報知器」

(10月全校朝会講話より)

二十四節気の寒露も過ぎて朝晩めっきり涼しくなってきました。毎年10月にはノーベル賞が発表されます。残念ながら今年は日本人の受賞がありませんでしたが、わたしは5年ほど前に青色発光ダイオードの研究で物理学賞を受賞した赤崎勇先生の言葉が記憶に残っています。それは「科学技術は諸刃の剣だが、LEDは悪魔的には使えない、平和的な技術であることに誇りを持っている。」こういうコメントでした。ノーベル賞の生みの親ノーベルはダイナマイトを発明しましたが、こちらは悪魔的にも平和的にも両用に使われているという現実があります。

赤崎先生はまた「自分のやりたいことだったので、沢山失敗しても続けることができた。」とも述べています。やりたいことができるって最高の幸せですよ。皆さんには人生で是非やってみたいことがありますか？自分のやりたいことを見つける。それが出来る所まで自分を持っていく、そこまで自分を高める。皆さんが今頑張っているのはそのためです。

今日はしかしノーベル賞の話ではありません。その前9月に発表されるのがイグ・ノーベル賞です。皆さんは知っていますか？これは「人々を笑わせ、考えさせてくれる研究」に贈られるというちょっと怪しげな賞なんです。

わたしはこれを毎年楽しみにしているので、今年は京都大学の西村先生の研究グループが「音響賞」を受賞しました。これは、ヘリウムガスをワニに吸わせてやっぱり鳴き声が高くなるのを確かめて、人間・哺乳類と爬虫類が同じ仕組みで声を出しているのだと証明したことに贈られました。これで日本人の受賞は

なんと14年連続です。いくつか紹介しましょう。

① カラオケは世界に冠たる日本人の発明ですがこれには平和賞が贈られました。その理由は、お互いにヘタクソな歌を聴かされてもイライラせずに我慢するという忍耐強さを鍛えてくれた、というのが平和賞の理由でした。

② 「バウ・リンガル」という名作もありました。犬語翻訳機（イヌの言葉を人間の言葉に翻訳してくれる機械）。シャレはわかりますか？「ワンワン」という犬の鳴き声は英語ではbowwowといいますね。それと2カ国語を操れる人をbilingualといいますよね。これを懸けて「バウ・リンガル」です。これにも、ヒトとイヌの関係を良くしてくれたという業績で平和賞が贈られました。

③ 心臓移植をしたマウスに違った音楽を聴かせて、オペラの「椿姫」の方が、モーツァルトを聴かせた方よりも拒絶反応が抑えられて生存期間が延びたという研究には、もちろん医学賞です。

④ 床に置いたバナナの皮の摩擦係数を測定して「バナナは間違いなく滑りやすい！」ということを証明した研究には物理学賞。こう聞くと随分ヒマだなあと思うかも知れませんが、実はこれは人工関節の開発につなげる研究です。

さて、今日紹介したいのは、このイグ・ノーベル賞を数年前に受賞した田島幸信（ゆきのぶ）さんです。田島さんは香り・匂いを使った商品を作る会社を立ち上げていました。それまでも、メールが着信すると香りで知らせてくれるストラップなどを作っていたんです（これ

はこれで素敵だあなたと思います)が、この時の受賞でそれまで3年間でたった200台しか売れていなかったある商品に、世界中から問い合わせが殺到したんです。

さあその商品とは何か?名付けて「わさび火災報知器」というのがそれでした。この年の化学賞は「わさびの香りで火事を知らせる火災報知器の研究」に贈られたんです。

アイディアの出発点は、「今、誰が一番香りを必要としているか?」でした。田島さんが想像力を巡らせた末に、思いついたのが聴覚障がい者のための火災報知器だったんです。耳の不自由な人は夜寝ている時に火災報知器が鳴っても気づきませんね。これはまずい。命に関わります。眠っている人を起こすのに最適な香りとは何か、田島さんは懸命に考えます。

たとえば、パンの焼ける匂い(香ばしくてお腹が鳴って起きそう)。レモンやミントの香り(爽やか)。腐ったタマネギ(これはノーサンキュー)。いろいろなものを試して、最後にやっとたどり着いたのが「わさび」だったんです。

実験台のベッドの上でグッスリ眠っていた人が、わさびの香りでムクッと起き上がった瞬間は思わず万歳、快哉を叫んだそうです。一般に嗅覚は睡眠中には働かないといわれています。ところが、わさびは嗅覚ではなく、なんと「痛覚」を刺激していたんです。痛ければ絶対目が覚めます。

「耳の不自由な人のための火災報知器」。美しくも心優しい商品だと思う。ここにあるのは、お金を儲けてやろうという発想ではありません。また、田島さんは「世のため人のため何かしなきゃ」と殊更気負い込んでいるわけでもありません。「自分がやりたいことをする」とそれだけです。それが会社の利益を超えて自然に困っている人や弱い人を助けることにつながっていくんですね。こんな楽しいことはない。その根底にあるのは、「誰かを慮る心」、「思いやり」、「きっと大変だろうなあ」と共感する心・シンパシー」です。

今はマスクをするのが当たり前ですね。でも、耳が不自由な人は相手の唇の動きで話の内容を知ろうとします。そんな人は困るだろうなあ、そう気づく心があれば素敵ですね。実はさっそく透明なマスクも売りに出されています。

皆さんは今、自分の夢に近づこうと一生懸命勉強しています。やりたいことをやりたい、つまりは自己実現を目指して頑張っています。でも、それが達成できた時、ヨカットハイオシマイなのではなくて、それがさらに見知らぬ誰かを幸せにすることにつながっていけばこんな嬉しいことはない。そう考えると学校生活にもまた少し力が籠もりますね。学習の秋です。今日も頑張りましょう。